

句集

樹も鳥も

湯浅夏以
Yuasa Natsui



樹も鳥も習作の刻風光る

景物に己が情調を注入した詠出で成功している。
上五のリズム感のある表現も洒落ていて新しい。

小澤克己(「序」より)

窓
蹴つて魚になりたき月夜かな

十月や海が決めたる海の色

揺れてゐるだけでいいのか芥子坊主

樹も鳥も習作の刻風光る

ポ
リ
ー
ニ
の
韻
き
春
星
潤
み
出
す

な
げ
上
ぐ
る
こ
の
修
羅
受
け
よ
春
の
月

蜻蛉や若き日の吾に言伝てを

何を企む八月の赤き星

月の出を待ちて翁と媪なり

夫の絵の葉書ポストへ星涼し

夫と見る窓いつぱいの春夕焼

瀧紅葉四十年経て立つ二人

二日ほどのずれで逝きたし花杏

美しき脚組み替へてパリー祭

菜の花や少女のやうに手を振らむ

夏のアンゲル画架たてて少女たち

遠きより集ひ来しもの日向ぼこ

花虻と遊びて齡をとりすぎし

来
し
方
は
一
色
な
ら
ず
遠
花
火

火
を
囲
み
人
狼
を
懐
か
し
む

山
焼
き
の
煙
は
龍
に
な
ら
む
と
す

東
京
の
晩
夏
を
食
べ
て
ゐ
る
麒
麟

秋蝶の呼ばれしやうに海へ発ち

行く先は秋夕焼と応へたし

十三夜
こころにたしか
落し穴

天目
指す一樹
ありけり
玉霰

返り花この世あ
の世と遊びたし

放課後の廊下
辿れば冬銀河

現世に何をわすれて帰り花

ストーブや父を囲みし法学書

遠
き
よ
り
集
ひ
来
し
も
の
日
向
ぼ
こ

冬
の
川
暗
し
人
形
焼
き
甘
し

木々に影あり吾がために木菟が鳴く

ニ
ユ
ー
イ
ヤ
ー
駅伝風の
マ
サ
イ
族

大
旦
は
る
か
な
も
の
へ
架
け
し
橋

八
十
の
声
の
華
や
ぎ
切
山
椒

冬牡丹恋のかけひきなど知らず

己が身も幻ならむ雪しまき

かくれんぼ寒椿よりもういいよ

ワルツの譜猫六匹の日向ぼこ

山家より寒夕焼に合掌す

舞ふ雪の疾くと駆けゆく夜^カ行^シ列^オ車^ペア

白髪
の夫の指
差す寒の
薔薇

海峡を
声曳き
ゆくは
雪女

音立てて枯葉が動く夜の都

風花や二人で訪はむ未知の国

宙に風木の葉の群が詩を作る

漁るや嘴^{はし}に氷柱の下がるとも

探梅行まだ蒼白き水の音

箴の音や雲むらさきに春隣



©2007 Natsui Yuasa
Printed in Japan

句集 樹も鳥も^{き とり}

平成19年9月4日 初版発行

著者 湯浅夏以
発行者 大山基利
発行所 株式会社文學の森

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場2-1-2 田島ビル8F

電話 03-5292-9188 fax 03-5292-9199

ホームページ <http://www.bungak.com>

印刷・製本 中央精版印刷株式会社

落丁・乱丁本はお取替えいたします

ISBN978-4-86173-638-4 C0092